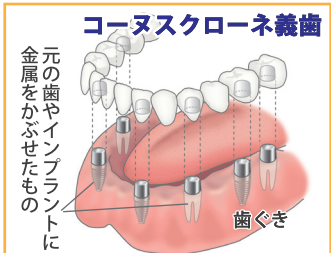




⑬ インプラント専門医の勧めるコーヌスクローネ義歯 ⑬

前号の最後でお話ししましたが、入れ歯の保険診療には限界があり歯茎の状態によって誰が作ってもピッタリ入る方もいれば、何度作っても合わないという方もいらっしゃると思います。歯茎が難しい状態の方が偶然保険診療で快適におしく噛める入れ歯に出会うのは難しいと考えています。

ご存じかとは思いますが歯科の国家資格には「歯科医師」「歯科技工士」「歯科衛生士」の3つがあります。その中でも歯科医師は歯科に関わるすべて



士が作ります。しかし、歯科技工士にも腕の差があるので出来栄は様々です。それこそ、顎の骨の良い方はどこで作っても問題なく噛める事がほとんどですが、顎の骨の悪い方は残念ながら保険の入れ歯では苦勞するかと思います。

顎の状態などによってピッタリ合う入れ歯を作るのが難しくなり、難し入れ歯ほど歯科技工士によって腕の差が出てきますが、保険診療では腕の良い歯科技工士には作ってもらえない状況です。

なぜなら海外と違って日本の相場が低すぎるからです。そこで保険外の入れ歯が出てくるのですが、歯科医師と歯科技工士の技量の差で治療費もまちまちです。通常の入れ歯は、人工の歯と歯肉の代わりになるピンクのプラスチックで作られてるので、「さらに美味しく」「もっと快適に」となると、ピンクの歯肉部分が無いタイプの入れ歯にするしかなく、もしくは高度に精密な入れ歯で対応するしかないのです。

若いうちはインプラントのみでも特に問題ありませんが、超高齢社会となった現在、80、90、100歳となったときに歯の管理の問題があり、インプラント専門医としても第一選択はどうかと思ってしまう。

では若いうちに入れたインプラントはどうするのでしょうか？安心して下さい、それを無駄にしない治療法がコーヌスクローネ義歯です。保険外ですが今後の自分の人生を考えてみてください。たまたまピッタリ合う義歯を作れるかもしれませ



院長の無料相談

木村匡司院長がお口の相談に応じます(要電話予約)。

歯の無料健康講座

次回は2月11日(土)・3月11日(土)
15時30分から約60分

通話料 無料
フリーダイヤル 0120-255-418